豊田合成の経営資本 ~76年の歴史を積み重ねて培ってきた経営資本~

経営資本は持続的な企業価値向上に向けた大切な源泉になります。豊田合成は経営理念に基づき価値創造の循環を繰り返しながら経営資本を培い、 先読みした事業機会やリスクへ適切なタイミングで資本を投入していきます。

豊田合成について

人的資本

企業の進化と成長を支える ダイナミズムに満ちた 「高分子型組織」へ変革

当社は世界15カ国・地域、グループ 58社で事業展開をしています。国 籍・性別・年齢・ライフスタイルなど の異なる多様な価値観や才能を持 つ従業員の個性や可能性を引き出 し、有機的に結合することで、新たな 創造性やパワーを生み出すダイナ ミックな「高分子型組織」の実現を通 じて、持続的な進化と成長を目指し ていきます。

従業員数 39	,192 名
海外従業員比率	76 .2%
ナショナルスタッフ 幹部比率	37%
女性管理職(単体)	41 _A
中途採用者 管理職比率(単体)	33%
従業員 エンゲージメント ^(単体)	59%

製造資本

ゴム・樹脂分野の知見と グローバルネットワークを活かして 世界中のお客様へ「安心・安全」 「快適」「脱炭素」を提供

世界中のお客様のニーズにタイム リーにお応えできるよう、各地域に根 差した営業・技術体制とグローバル で最適な生産・納入体制を整えてい ます。加えて、76年培ってきた自社の 強みである「ゴム・樹脂の知見」を活 かし、工法や牛産設備を革新的に進 化させ、モノづくり力を高めています。 また、ICP(インターナル・カーボンプ ライシング)を導入し、地球環境と経 済活動のバランスをふまえ、投資判 断しています。

拠点数	58社 (2025.6.30現在)
設備投資費	574億円 (2025/3月期)
COz排出量 削減(単体)	▲39.6% (2015.3期比)

知的資本

高分子の可能性を追求し 唯一無二な 研究開発力を磨きあげ 競争優位性をさらに強化

クルマの様変わりに伴う変わりゆく 未来を見据え、社会やお客様のニー ズを先読みし、提案できる技術力を 持ち合わせていくことが重要です。 研究開発力は企業成長の源泉であ り、直近3カ年で約1.000億円の研究 開発費を投入し、高分子の可能性を 追求した、新規・既存事業の研究開 発を推進しています。IPランドスケー プを活用し、新規事業開発の意思決 定の確度とスピードアップを図り、 競争優位性をさらに高めています。

研究開発	費	419億円 (2025/3月期)
開発・ 技術員(単	重体)	2,222 人
保有 特許数		±2,354件 ×2,045件

社会・関係資本

ステークホルダーとの 丁寧な対話による 強固な関係を構築

自動車業界では市場構造の急速な 変化と勢力図の転換が進むととも に、事業環境の不透明感と不確実性 が一層増しています。経営ビジョン を実現していくには、さまざまなス テークホルダーとの円滑な連携が重 要です。当社はステークホルダーと 丁寧に対話を重ね、社会への価値提 供を通して、強固な相互信頼関係を 構築・維持し、厳しい事業環境の中 でも柔軟に適応しながら、着実に進 化し続けます。

サプライヤー 数(単体)	約600社
大学共同研究・ 連携	名古屋大学・ 大阪大学・ 東北大学
アナリスト・ 機関投資家向け 個別ミーティン:	1/7101

自然資本

培ってきた環境技術と知見を 活かした「気候変動」と 「資源循環」への取り組み

当社は、1993年に「第1次環境取り 組みプラン | で本格的に環境活動を 開始し、30年以上精力的に取り組ん できました。自然資本はマテリアリ ティ(重要課題)やアウトカムの根源 です。これまで培ってきた「環境保全 の知識・技術 | と競争優位性の一つ である「ゴム・樹脂分野の知見」をよ り進化させ、自然資本を効率的に投 入することで環境負荷の低減、地球 環境・資源の保全と経済的価値の創 出の両立を目指していきます。





持続的成長と 企業価値向上を支える 健全な財務マネジメント

財務の「成長性」「安全性」「効率性」 の3つのバランスにより、持続的成長 と企業価値向上を目指します。当社 の資本コストを上回るROE10%の 達成に向け、資産効率向上の観点か ら当社独自のTG-ROIC*などの新し い管理指標を導入しました。より多 面的な財務マネジメントを実践して いきます。

TG-ROIC * ※TG-ROIC = 営業利益 固定資産+棚卸	13.7% (2024年度) _{資産}
ROE	6.8% (2025/3月期)
信用格付(R&I)	人 + 1年10月2日時点)